

地域の概要及び課題

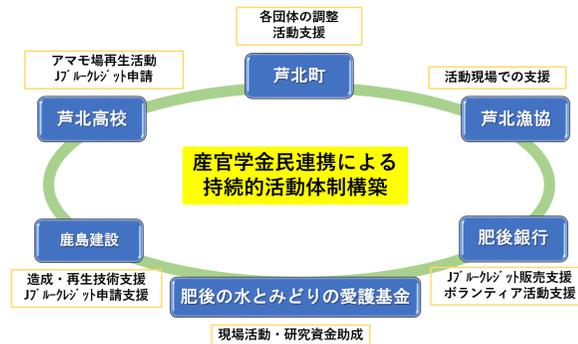
【地域の概要】

- 2003年芦北漁協から依頼を受けた、熊本県立芦北高校林業科はアマモ再生の取組を授業に組み入れ、継続している。
- 0.025haから7haにまで再生したアマモ場が2020年熊本豪雨により5haが土砂により枯死。現在も高校生の力により再生活動を継続している地域

【課題】

- 高校が主体の活動のため、科学的知見や経験が不足。
- 活動資金の不足。
- 産官学金民連携による支援体制が構築されていない。

取り組みの実施体制、連携



熊本県八代海沿岸



R6年度モデル事業における取組内容および成果

藻場再生に係る技術的支援

- 芦北高校、天草高校などに対し、出前授業を実施。(鹿島建設)



【成果】

- 専門家と連携した水中ドローン、水中温度計などを活用した藻場の調査により、科学的調査手法の基盤を形成。
- 藻場の空撮技術を地元ドローン業者が修得。

持続的活動の資金確保

- 活動団体による自立したJブルークレジットの申請を技術的にサポート。



代表申請者
熊本県立
芦北高校

【成果】

- コンサルは活用せず、産官学金民連携による熊本県初のブルークレジットの申請。CO2吸収量31 t 認証取得。

地域内連携体制の構築

- 持続的な連携体制の構築を目的に芦北町における関係機関との調整を実施。



協定書

【成果】

- 芦北町、芦北町漁協、芦北高校、鹿島建設、肥後銀行、愛護基金6者による連携協定を締結。

普及啓発ツールの作成

- アマモ場の重要性、Jブルークレジットの自立的申請体制を記載したパンフレットの作成。



【成果】

- 地元関係者および地方公共団体の理解促進を図る。

今後の課題および取組方針

- 海水温度上昇によるアマモ場の急速な減少およびアマモ定着率の悪化を改善するための専門調査を実施。
- 活動団体に対し、円滑な伴走支援を行うための地元の研究機関との連携強化。
- 連携協定に基づく取り組みを展開し、企業や住民を巻き込んだ地域ぐるみの支援体制を確立。他の地域への波及。